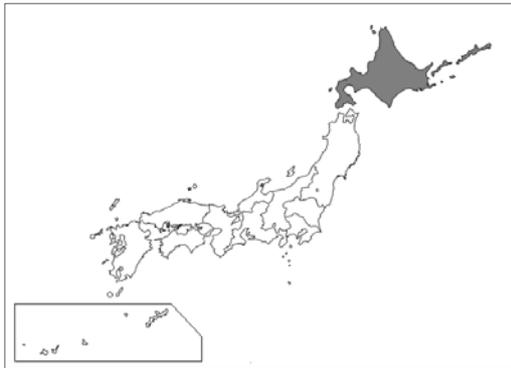


### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は回復の動きに弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更 )

#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 2 月)	今回 (平成 29 年 5 月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
住宅建設	増加	大幅に増加	

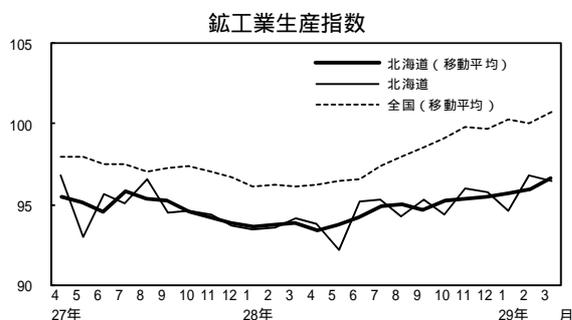
#### 1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は生乳生産、水産業の水揚量ともに前年を下回っている。

1～3月期には、生乳生産は総量では952,260tと前年比2.8%減となり、牛乳等向け、乳製品向けともに減少した。水産物の水揚量(主要8港)は、するめいか等が減少したため、前年比61.6%減となった。

(2) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1～3月期には、食料品は、期間限定の新製品向け生産等によりビール等が増加した。パルプ・紙は、新聞巻取紙が生産設備の故障により減少した。電気機械は、新製品の量産化や既存製品の追加受注等により増加した。鉄鋼は、道内の民間建設投資の増加や東京オリンピック・パラリンピックの建設需要等により普通鋼棒鋼等が増加した。輸送機械は、自動車駆動伝導装置等が減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
食料品	24.2	2.2	1.2	1.7	1.3	1.9
パルプ・紙	11.9	1.7	0.2	1.7	2.2	2.1
電気機械	11.7	2.0	10.6	1.0	14.7	5.6
鉄鋼	7.5	4.8	5.6	4.0	0.1	2.1
輸送機械	7.0	4.5	6.0	6.4	0.1	1.9
鉱工業	100.0	0.4	0.6	1.3	2.3	0.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

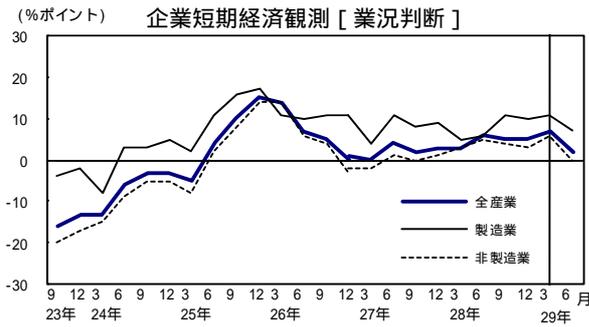
2. 1～3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。

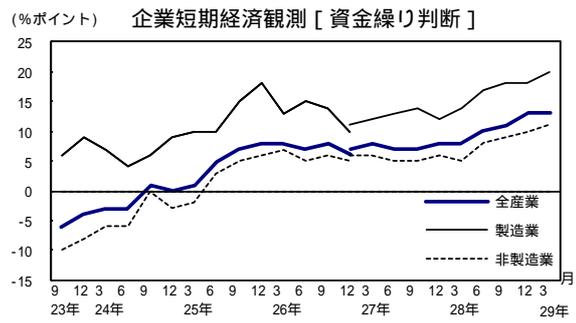
2. 全国及び北海道の大線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

(3) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

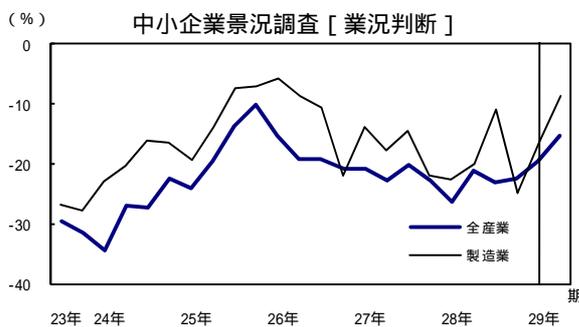
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年6月は予測、26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

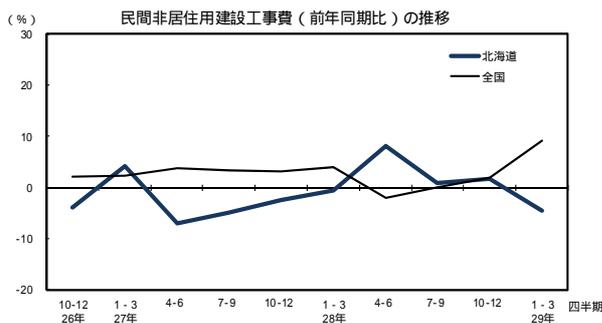


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「取引先の慎重な姿勢が変わらない(コピーサービス業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

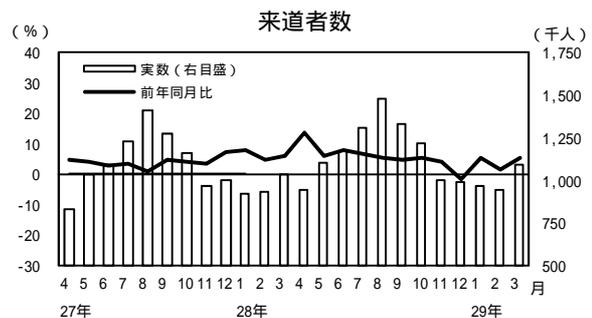
	28年度実績見込み	29年度計画
全産業	18.1(0.8)	15.2
製造業	15.8(4.1)	53.8
非製造業	19.0(0.5)	0.1

(備考) 1.( )は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

2. リース会計対応ベース。

(5) 観光は増加している。

来道者数は、さっぽろ雪まつりや冬季アジア大会等もあり、増加した。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.2%増、2月は同1.2%増、3月は同0.8%減となった。

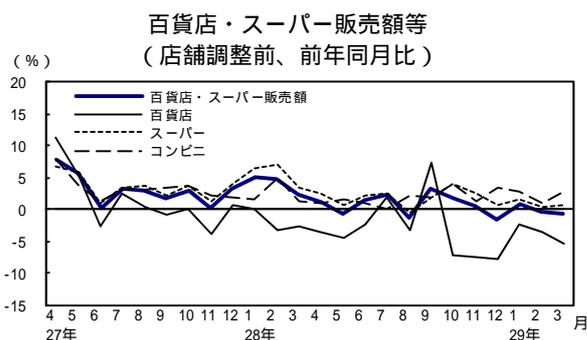
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、家庭用電気機械器具等のその他は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品、飲食料品は前年を下回った。2、3月は、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他の全ての品目で前年を下回った。

スーパーは、主に飲食料品が好調だったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「3月までの数か月はタクシー1台当たりの売上が前年比プラスで推移していたが、4月はほぼ前年並みとなった。また、乗務員不足により稼働率が大きく低下しているため、会社の売上は前年から大幅減となった (タクシー運転手)」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

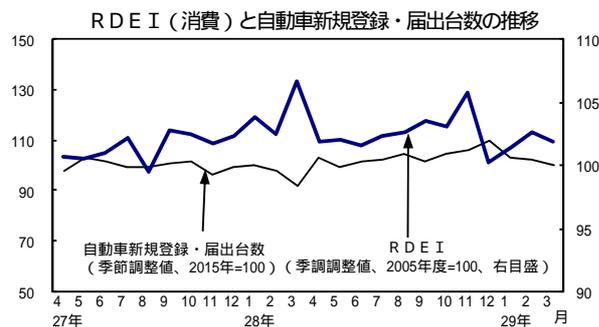


	29年1-3月	29年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.0	1.2	1.2	0.8
百貨店・スーパー(*2)	0.2	0.8	0.5	0.7
百貨店(*2)	3.9	2.4	3.7	5.5
スーパー(*2)	0.9	1.7	0.3	0.7
コンビニ(*2)	2.2	2.8	1.0	2.7
乗用車(*3)	7.2	5.2	5.7	9.0
(季節調整値)(*3)	4.2	5.6	0.7	2.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

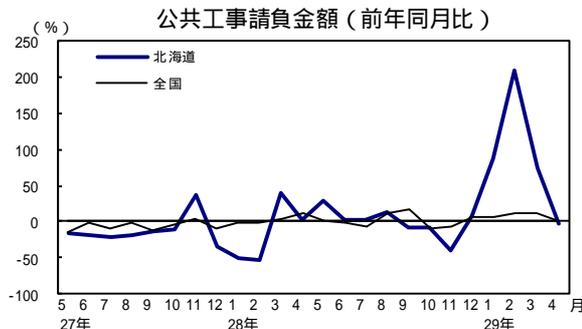
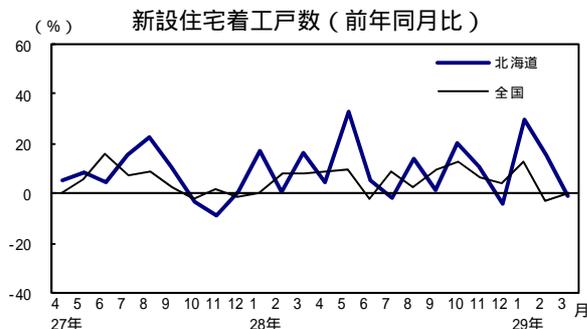
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲いずれも前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度を上回っている。

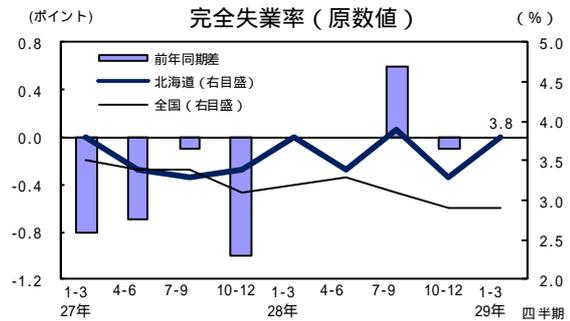
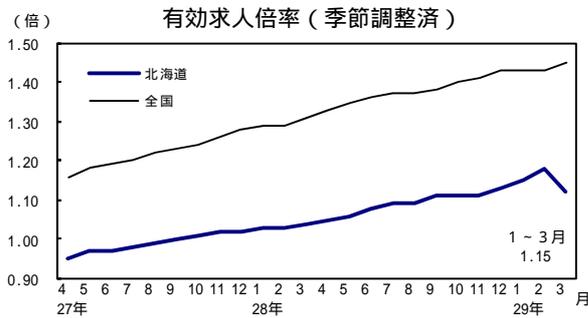


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（4月調査結果）[雇用関連（現状）]

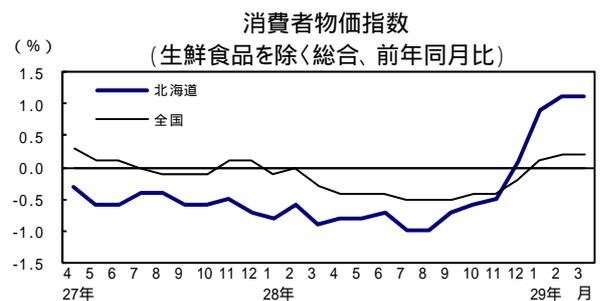
「人手不足と需要の増加で建設業や運輸業の求人は堅調である。しかし、小売業などの個人消費関連の求人は横ばいかやや減少傾向となっている（求人情報誌製作会社）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年4-6月	7-9月	10-12月	29年1-3月	29年4月
倒産件数	63	74	63	79	22
(前年比)	3.3	3.9	6.8	16.2	4.3
負債総額	109	76	70	99	23
(前年比)	20.3	32.3	55.0	73.8	50.0



景気ウォッチャー調査（4月調査結果）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・3か月前と比べて、客の来店周期が明らかに短くなっており、それに伴って売上も増えている（美容室）

<先行き>

・客単価も伸びず、来客数も増えないため、今後も景気は変わらない（衣料品専門店）

